

手塚治虫作品集―その9 『ネオ・ファウスト』―

萩原 義雄

『ネオ・ファウスト』という作品

初出雑誌『朝日ジャーナル』昭和六十三年（一九八八）一月一―八日号―二月一六日まで連載。第二部は、連載二回目で未完となりました。そして、朝日新聞社から一九八九年四月に一冊本として刊行されました。実質、第一部の頁数が5頁―381頁に対して、第二部の頁数は384頁―403頁と短いのです。

登場人物とその言動表現

此作品の主人公は**NG大学一ノ関**と云う研究に明け暮れて五十年の老教授。

一ノ関教授自身の述懐表現

○「わしにもあの学生達のように青春のエネルギーを発散すべき時代があつた……。だが、そのエネルギーをわしや、学究に注ぎ込んだのだ。それが人生だと納得して……。来る日も来る日も、この象牙の塔の中で世捨人同然に居座つた。気がついたら**50年**……。だがわしは何ひとつ解明できんままだ。なぜ石にコブができんのか？それすら解明できん！。この象牙の塔の中だとて立身出世と保身と功利に汲々とする輩やからがゴマンとおる。そんな連中には一切わしは背を向けた……。俗塵とは縁を切つて禪寺のような環境の中でわしは生きて来た……。もう先も長くなかろうが……。それなのに、わしには宇宙の真理がこれッぽちもわからんとは!!。生命の本質が何ひとつ解けんとは!!。人間は死んでどこへ行くのか？霊魂といわれるものは実在するのか？なあ君、どんな気持だ？君は死後の世界を堪能し大口をあいてわしを笑うとるんだらうな。この臭い陰気な壁の穴ぐら。日光さえ届かぬ濁つたガラス窓、書物はシミが食い、埃に覆われ、あたり一面ガラクタの山。これがわしの世界……。これでもs世界なのか、これでも！。あのいきいきした自然の代わりになぜ、わしはこんな、ススヤカビだらけの部屋に蛆のように住み、人間や動物の骸骨にかしずかれていますだけなのか？。学生はわしをミイラと名づけた……。だがまだミイラじゃないぞ。その証拠にこの頭には、まだまだ知識欲がうごめいとる……。わずかに生きがいを感じさせてくれるのだ。生命とは何か!。なぜ人は生命を作り得ぬのか？。その答を50年かかって求めて来た。だめだ字も震えて書けん。あと30年……。せめて……。せめて30年若

かったら……かならず、なんらかの解答のカギを見つけたらうに……わしに残された時間は……もう足り
んのだ……、間にあわんのだ……。わしや、この小瓶を後生大事に引き出しに入れておいた。わしに老
人痴呆症の症候でもあれば、すぐさまこれを呑み干すつもりで持っておった。だが、今わしは、頭脳
の冴えとるうちに、わし自身、実験台になってやる。もし、死の瞬間に意識が働いておったら、わし
は自分で死後の生命の存否を確認してやる。わしに残された最後の究明なのだ！。教授どもは言うう
だろう。紛争のさなか錯乱をきたし毒をあおいで自殺したと、わしの真意も知らずにな」〔26頁2コ
マ〜29頁2コマ〕。

「わしの自尊心も消え、容赦ない現実を引き戻された」「この大気の中に、もし何かの霊でも漂って
いて、宇宙の摂理を司っているのなら、どうかわしに、新しい生命、新しい人生を与えてくれ、そし
て、わしはこの狼籍から抜け出たいんだ」〔31頁3・4コマ〕

「では、一年生の諸君のために、そもそも遺伝子とは何かを説明しよう。生き物の細胞が分裂すると
き、顕微鏡でのぞくと、細い条状のものができる。これがすなわち**染色体**と呼ばれるものじゃ。」「染
色体はDNA（デオキシリボ核酸）と蛋白質からでき、よじれた毛糸のようにからみ合っている。

もしこの染色体を一本取り出して蛋白質を取り除いて水に浮かべて広げると、なんと切れ目のない長
い長い繊維のようなものがあらわれるじゃろう。これがDNAの分子じゃ。太さはたったの5000

万分の1ミリだが全部の長さは170センチもある。この細いDNAの繊維をさらに細かく電子顕微
鏡で見ると、その中に二本のらせん状の帯が通っている。この二本のらせん状の帯のあいだには四種
類の塩基が二つずつ組み合ってハシゴのようになるとる。この塩基の並び方によって、蛋白質につい
ての情報を伝えるのじゃ。蛋白質は生き物のからだのもとになり、あらゆる生体反応を制御している
物質である組み合わせことで、蛋白質を合成するキイワードになる。〈中畧〉「さて諸君！このDNA

の二重らせんの構造は、一九五三年ワトソンとクリックという二人の少壮年学者が発見した……それは
遺伝の本質を明らかにしたものである。遺伝とは何かという事を、物理学の上で解明できたのである」。

「おーそーじゃ。スライドをばうつしてくれ給い」「さて……これがDNAの模型である。まア、いわ
ばねじれたハシゴのようなもんじゃ。このハシゴの段にあたる所は水素分子でラフにつながつとる……
……この水素結合を切りはなしてやると……二本のDNAのかたわれができる。そのかたわれからそつと
り同じ形のDNAを……自分でつくり出すのじゃ。」「かようにDNAは自分で自分のコピーをつくつて
無限に生きていく……。この地球に生物が生まれて三十六億年……そのあいだ生物のからだのDNA
は限りなくコピーを生んで……生物を存続させてきた！じつに……すばらしい力ではないか！。だが、
それではコピーばかりで変化や進歩がない。そこで、生物はオスとメスによる生殖によって親と異な
った子孫をつくつたのである。」「メスの生殖細胞」「オスの生殖細胞」そのさい、男と女の性細胞（精

子と卵子)は受精すると、たちまち、分裂を始める。そのとき、男の染色体と、女の染色体は半分に分かれ、それぞれが、半分のまま組んで一人前の細胞になる。だから、両親から生まれた子どもは二人の親の性質をませこぜにもっていて、絶対に親のコピーはできないのである。そこが遺伝の仕組みの不思議な所じゃ。さあ見てくれ給い。わしの鼻は、父親からわしの目は母親からもうたんじゃ。て……次に突然変異についてのべる」「おいッおいッスライド係ッ。スライドがさかさになつとるぞッ。〔233頁〜239頁〕

一ノ関教授の周囲の人たち捉え方

○「あの人も世間知らずというが事情がわかってないからな」(同大学教授たち)〔7頁7コマ〕

○「ダメだこりゃ」「話にならん」。「ミイラに何聞いたって無駄だよ」「哀れな学者のなれの果てだ」

「先生いいからお通りなさい」(過激派学生)〔8頁6・7コマ〕

○「お……。一ノ関先生じゃありませんか！。このかたは何度もノーベル賞候補になられた生化学の権威者だよ！テレビでお顔、見てますよ」(機動隊員の一人)〔30頁3コマ〕

○「お……。一ノ関先生じゃありませんか！。このかたは何度もノーベル賞候補になられた生化学の権威者だよ！テレビでお顔、見てますよ」(機動隊員の一人)〔35頁4・5コマ〕

○「なにしろ、奥の建物なんざあ明治三十年に建ったままのしろもので……その石造りの廊下は曲がりくねって一年中冷気が漂って——まあ、悪魔が喜んで住みついたって不思議はねえということさ。

ところが、そんな時代おくれの建物に居座っている変人もいるんだからな」「へえ——誰や、そいつ……」「ほれ、あの一ノ関の大先生だよ」「あハアあれ」「あのじいさん、この大学のヌシやそうやる……。有名人やさかい、大学でも、やめさせられへん立場やてな」「そうよ！その上……、うわさによると、あの大先生、悪魔を呼び出す魔術の研究もしてるってよオ」「ここは創立いらいの古い本ががぶっている図書館……。そして、この上が理事会の開かれる会議室」「へ、へえ、なんやねんこの、ウジャウジャあるのは……」「これよ。一ノ関教授がしょちゅういじくっている実験室よ」「へー、こんな所でそのじいさん何年も、実験ばツかやつてるんか」「何年なんていうどころじゃねえさ。50年もだ!!。」「50年！。よう続くわいな。おれ、そんな人生はいややな。そうよ。その先生、偉い人か知らねえが人並のことは何一つやっちゃいねえんだ。〔177頁〜178頁〕

○一ノ関先生は辞める時、自分の研究だけを持って行ったよ。その中には極秘の研究データも含まれていた。われわれはそれを見る機会もなかったんだ。今は先生の部屋のどこかにしまっただろうがね。(木下研究員)〔287頁〕

◎「あの老人は？たしかテレビのニュースでおなじみの顔だ。今年のノーベル賞候補になった……」

生体科学者の一ノ関教授だ！」。一ノ瀬教授——NG大、いや日本科学界が世界に誇る生体工学の権威！イギリス、フランス、西ドイツ、その他18カ国の科学アカデミーの客員であり、三度ノーベル賞候補にのぼり、1960年、染色体の中のDNAを人工的に操作転換することで、人工的に新生物を作り出せることを予言したことで有名だが同時に、世間には浮世離れした変人学者とも受けとめられ、学内ではほとんど派閥の外に孤立している。〔170頁6コマ〜171頁3コマ〕

そしてもう一人、坂根第一(実は蘇春した一ノ関自身)という青年

NG大学第二理学部の助手〔9頁5コマ〕バイオセンターに籍をおく。

○「私はクローニングで人工臓器を造り出すことを研究しています」〔44頁4コマ〕

坂根第一の言動表現

○「しかし、そもそも神とか悪魔とかいう言葉が悪いんでして：プラスとマイナスにはたらく相対的な霊的存在だと思えばいいのです。悪魔を邪悪なものと決めつけるのは中世期の偏執狂的な宗教家どものせいで……。私は悪魔がそんなに邪悪なものだとは思いません。ある意味では悪魔も人間の味方かもしれません。シエクスピアもマクベスの中で言っています。「いいは悪い悪いはいい」〔47頁8コマ〜48頁1・2・3コマ〕〔366頁〜367頁3コマ〕

○おれはおやじ(坂根第造)がガンで死ぬほかないと聞いて、生命一つままならぬ人間に憐憫を催したさ。おれが自分の手で生命を作り出したり、自由に操れたりするとどんなにすばらしいだろうと考えた。それも、この世にない新しい生命体だ。それが創造できればおれはそいつらを神のように操るのだ。〔148頁1コマ〕

○「おれの夢は、新しい生物を——それも飛びつ切りの新生物を山のようにこの地球へ送り出し、それを眺めることだ。はじめはP4レベルの細かいビールスからはじめ、次第に高等な生物に……。そして、究極は、この手で新人類のアダムとイヴを創り出すのだ！。それにはどうしても一ノ関のご老体の研究データを手に入れなきゃならん」〔288頁6・7・8コマ〕

○「是が非でも教授の秘密をここから見つけなきゃならない」リッチモンド大学のB・プロテウス教授とともに細胞内プラスミドの組み替えに成功し、新生物の細胞組織の創造の望みが生まれた。これをわれわれは「ホムンクルス計画」と命名する。〃「これだ。まさしく、一ノ関教授の極秘資料」
「ホムンクルス計画とは？」「ホムンクルス」とはゲーテが小説中に描いた小人で、おそらく文章ではじめて書かれたバイオテクノロジーによる人工人間の名前である。「われわれは大腸菌の中に存在するプラスミドという不思議なDNAに注目した」「そのプラスミドはリング状をしており、しかも、ちゃんと遺伝情報を伝える機能を持つておるのだ」「われわれはプラスミドを大腸菌から取り出した

ある部分を制限酸素で分断し、そこにマウスの筋のDNAを差し込んだ」「われわれはそのDNAがどんな遺伝情報を持っているかはわからない。しかし、そのDNAは、プラスミドに組み込まれたのだ」「しかも、そうして組み換えた新しいプラスミドを持った大腸菌がどんどん増殖して行くのを見てホッとした」「そして満足して、その大腸菌を処分したのである」「（こいつは、信じられん実験だ。これと同じ研究は…：確か現在、アメリカのジョン・ホプキンス大学でもやってたと聞くが、あすこではまだ成功したという報告は聞いていない！）」「さらに、われわれの研究テーマは、遺種生物の細胞を融合して新生物をつくることであつた」「すでに米国ではヒトとマウスの細胞をウイルスにより、融合させる実験に成功している」「われわれは、筋腕目のゴルゴノケファルス・フェロモンツスの受精卵とオフィオツリフス・レピダスの受精卵の初期胚を合わせて培養した。そして生まれたのは、この二つの生物の交ぜ合わさつた全く新しい生物であつた」「すでにキメラマウスの名で同種のネズミの細胞融合は成功しているが…：異なつた種類の動物では、初めての試みである」「（この新しい生物が…：一体でも外部へ出ては一大事だ。生態系に大異変が起こる）」「われわれは、出来た新生物をただちに処分することにした。「ホムンクルス計画」は確かに新生物を生み出しはするが、それはあくまで閉鎖された室内で行われなければならないのだ」「科学技術は、いささかでも生態系を変えてはならぬのだ。だからこそ、われわれは「ホムンクルス計画」をおおやけにはしないつもりだ」

”〔291頁〜295頁〕

女学生高田まり子

次に、この坂根第一が愛する女学生高田まり子〔163頁6コマ〕、「NG大学、文学部の古典国文学」〔170頁3コマ〕に所属すると次第に坂根は接近していくことで明確になっていく。

○「女子大生にしては、こんなに整頓した部屋は珍しいわ。几帳面なのね」〔163頁7コマ〕

歌うまり子「むかし ツーレに王ありて 心に深くお妃を 愛し給いて睦みけり 死のみぎわにて
お妃は 形見に杯を 手渡しぬ 王は 形見の杯を うたげの度に 愛でたるも 亡きお妃を しの
びてか つねに杯へ涙せり」「老いて 命の尽くる時 王はうたげの さなかにて その杯を飲み尽
くし 外なる海へ投げ入れぬ」〔これゲーテの詩なの！〕〔193頁〕

「むーかし王さま ノミを飼った！ わが子のよーに 可愛がった 仕立屋を呼んで おおせられ
た「ノミに洋服三揃いつくれ ノミは大臣 一族連れて 派閥つくって ゾロゾロ歩く 女官も家来
も 刺されっぱなし つぶすことご法度ゆえに 刺されっぱなしー 私たちなら 誰はばからずこー
してプチリとツブシマスウ」〔334頁4コマ〜345頁1コマ〕※この歌い手は、実はメフィストがまり子に化け
ている。

悪魔というメフィスト

この二人というか一人の人間を操るのでもなく寧ろ彼を主人として下僕のように使える悪魔が登場してきます。悪魔の名を「メフィスト」、女性の悪魔なのです。通常「魔女」と表現しますが彼女は悪魔ということばを好みません。一ノ関教授が「こんな言葉は使いたくないが、オカルト映画によく現れる悪魔とかいう代物か？」という問いかけに対して、「それをおっしゃるなら、そんな俗な名ではなく、**すべて否定する霊**とも呼んで下さいね」と問い返す。「そりや、どういう意味じゃ」「あなた

たがたが、ビッグ・バンとか呼んでいる150億年前、私どもは闇の一部として生まれましたの」「混沌カオスの中にいてあらゆる森羅万象を破壊することをビジネスとしておりますわ」と続けます。一ノ関教授は、この話を聞いても不変せず彼女を「悪魔」とか「悪魔と称する女」〔44頁8コマ〕と口にしながら、この話を聞いても不変せず彼女を「悪魔」とか「悪魔と称する女」〔44頁8コマ〕と口にしながら、続けています。変身した後には名を聞き出しますが、それでも彼女を「牝フィスト」〔134頁6コマ〕と呼んでいます。

「私はいつも先生のお側にいますわ。ただ私達にも厄介な掟がありましたね。契約者以外の……第三者の前では、その姿を(野犬・狂犬)変えていなければなりません。ほらまた邪魔者、まったく東京ってところは人口が多いんだから」〔95頁4・5・6コマ〕

「あたしにはちゃんとした名があります。ただし人間の口では発音できませんけど」「シート……。人間風の言葉に翻訳すると**メフィストフェレス**ですわ」〔121頁4・7コマ〕

「塵より生まれしものよ。塵に帰れ……。あの人もタマに気の利くセリフを言うわ」〔129頁6コマ〕
「あら迷惑ですわ。殺す気ならもつと簡単だけど手は出しません！。ガンはね、**疫病神**という神さまの受持なんです」〔135頁3コマ〕

「どれ、あの子のために、教訓的な歌でもプレゼントしてやるか……♪」「カトリーネ いとしい男の門口で 夜明けの前に何の用 それはおよしよ 入っては まともには出られぬ すまされぬ ご注意 意肝心 男なんて すんでしまえば おさらばよ あわれな処女の かわいこちゃん 自分が大事なから お気をつけ……※」※ゲート「ファースト第一部」夜の場、メフィストのセレナーデ〔225頁④〕

「ねえ、読者の皆さん、ほんとに色気のない女だと思いませんか？。念のために申し上げますけど、これは手塚治虫の描く女がちつとも色気がないからじゃありません。ほんとにこの時期のゲバ学生って、お色気抜き！。ゲバ棒にヘルメット、セーターにジーパン、ズックにタオル、それがこの時代の若者の、ある先端ファッションなんです。一方じゃフーテンとかヒッピー姿がもてはやされるし、それにしても、わがご主人様は、何故あんな色気のない小娘にいつまでも執着していなさるのかねえ……。目の前にあたしという女が居るのに全然無視……。どんなに色っぽく迫ってもあの人ったら反応ないし、

悪魔も歩けば石にブチ当たるし…。虚像と虚言、意味と処を変える。ここに居よ。かなたに居よ！。フン、ちよっと道路掃除してやった。しかし、何てあの娘、色気が足りないんだろ。※石井隆にでも書き直させてやりたいわ。あーあ、ご主人様、たまにあたしを振り返って下さいな…。なんちゃって。だけど、待てば海路の日和ありつてこともあるしね……。そのうちご主人も飽きが来て、こつちに御馳走がまわってくるさ。そうとう悩んでいるねあいつ……。ざまー見ろだわ」〔304頁〜305頁〕※石井隆
Ⅱエロス劇画家。近年は脚本を書き、ポルノ映画の監督もつとめる。
「大ネズミ。小ネズミ、銀蠅にヤセ蛙、南京虫。しらみの王のおぼしめしだ。すぐ仕事にかかれ運び出せ。床下、縁の下、木のうろの中から、時を刻む音の主を見つけて捨てよ、さあ急げ！」〔354頁1コマ〕

召使いメフィストが展開する事象

十字架の形が悪魔メフィストを封じ込める

宇宙の方程式を解く…

悪魔との契約書

「わしは二十歳の青春に戻りたい。そして人生をやり直したい。それから宇宙の真理をもう一度聞きなおす。そうだ。これはわしの望みだ。わしはお前を思うがままに使いたい！そして、わしを、今までの生活とうって変わった快樂の世界に導くのだ！」「結構ですわ。召使いになれとおっしゃるのね。期限はいつまででしょうか？」「わしが、もうこれで満足と言うまで……。ある瞬間「時よ止まれ、お前は美しい」と言うまでだ」「ではその時、先生の魂はこのあたしがいただきますけど」「ああ！どうしてもし給え！」「じゃあ、ここにサインをお願い」「そうか契約書か……。こんなものなくつても約束は破らんよ」「待って、ただのインクじゃだめ。先生ご自身の血でサインを。血は特別のインクですからね。さあこれで手続きはおわり！。これからあたしは先生の召使い」〔54頁2コマ〜55頁5コマ〕

タイム・スリップⅡ時間の壁を越える…20Gの加速度〔57頁4コマ〕で移動

昭和三十三年（一九五八）年四月一日 赤線地帯

忘れもせん。わしが五十七の時じゃ…。昭和三十一年国会を通過した売春防止法案が二年たった三十三年に施行されたのだ。昨日のことのように覚えとるぞ……。この女どもはいわば公娼じゃった。毎夜ここへ、性に飢えた男どもが女を漁りにうろつき、売春でかせぐ犯罪がまかり通った。わしや反対の急先鋒じゃった。〈中略〉**売春は、必要悪ちゆう擁護論もあつた。だが、主婦や婦人代議士が中心の反対論がついに赤線を閉めてしまったのだつた。**〔61頁〕

回春剤Ⅱ若返りの薬と中和剤(胎児の黒焼)、抑制剤(お小水)の投与

「1を10、2をひいて、3をつくれ、4は手ばなせ、5と6より7と8これにて成就。9は1にして10は0……」崇高なる力とざされたり無なる心にそは与えらるべし」

変身：身長およそ一七〇センチ。体重ほぼ七〇キロ、肩幅四二センチ…の好青年に変わる

坂根物産の社長坂根第造との出会い

○「世の為、人の為、お国の為なんどとは一切考えんな。手前が大事。手前だけが宝だとな。わしの主義じゃ」〔89頁4コマ〕

○「アホ!!。そげなもんに出すな!!。わしにムダ金使わせんな。この能なし!。なんぼ景気が向上き加減ちゆうても相場に手エ出す気はさらさらないわ。小豆相場など糞くらえ」〔97頁3コマ〕

○「第一よ……わしがおんしん忸ちしたのはな…おんしこそわしの夢バ継いでくりよるただ一人の男と見込んだからじゃ。おんしにはなんかある。ほかの誰にもねえ一途な…でつけえ人生バ夢見ちよる。最初遇うた時、おんしん惚れ込んだんよ。おんしを忸にすツと腹づもりした。それから七年忸としての教育ンさりげのうしちよつた。第一よ……たのむ。世間を……いや天下を覆すようなでつけえことをやれ」〔144頁2コマ〜5コマ〕

夢物語

○「なんぞい。この暗号ア」『どうした坐つちよらんとこつち来て説明せんかい!』

(坂根第二)「これは東京湾です。そして……わが社の倉庫と横浜埠頭とはこれだけの距離。」「荷を運ぶのに混雑する第一京浜道路を迂回して走らねばなりません。それに要する労力と時間の浪費は莫大です。でおれはかりに川崎・鶴見から船橋まで埋め立てて高速道路をつくれれば四倍半の能率を上げられると考えました。で、他の企業にも開放してその高速道路を有料にすれば……、この事業は二十年で負債がゼロとなり利益に転じます。」「(坂田第造)「おんし知らんのかい。東京都は三十九年のオリンピックの為に高速一号線を羽田まで建設する計画ツちや」(坂根第二)「知っています……。おれはむしろそ

の為にアイデアを掲げました。つまり、いつそ東京湾全部を埋め立てて国際空港を造るのです」。(坂田第2) 「おんし、今なんちゅうた」(坂田第2) 「東京湾全体を買い占めて埋めたてるのです」(坂田第2) 「国際空港とぬかしたな」(坂田第2) 「羽田空港だけでは国際都市になりません」(坂田第2) 「この東京湾を埋め立てるのか。全部か」(坂田第2) 「そうです！。ちようどこまで東京湾の水深は二十五メートルそこそこです。ここまで五メートル。標高で平坦に埋め立てたとして、およそ二七〇億立方メートルの土砂が必要です」。(坂田第2) 「二七〇億立方メートルちゅうと四〇五億トンか。そげエな土どっから持って来るんかいね」(坂田第2) 「房総半島の五十メートル以上の山を削れば、ちようど、その土砂の量に匹敵します！。いや、ばかげた夢物語ですよ。こんなことは」(坂田第2) 「そは思わぬ。わしや中学校の教科書で習オた秦の始皇帝は一生かけて何千キロも万里の長城をつくりよつたそう。始皇帝の名は歴史に残った。この位の夢は知ツとオわ。……東京湾を埋め立てりや、わしの名は歴史に残る。生まれ故郷にも銅像も立つか。ウチの坂根土木見積もり出させよう……。ま男一匹、全財産賭ける値打ちはあるわな」(坂田第2) 「冗談でしょう。これは、ただのおれの夢です！」(坂田第2) 「わしや、そげばでつけえ夢が大好きでのオ。おんしなら、なんかひねり出すと思うとつたんじゃ」(99頁2コマ〜102頁6コマ)

一兆円を生み出す方法

「いいえ、相手はアメリカなのよ。来年になれば世界をゆるがす大事件が起こります」(来年の二月七日ずっとベトナムで続いている政府軍と共産軍との戦いにアメリカが手を出すの。ジョンソン大統領が北爆を指令するのよ。そして三月にはダナン港にアメリカ海兵隊が上陸するわ。全面戦争になるでしょうね) 「そうなる前に手を打つことです！。そしていち早く軍需物資をアメリカに売るのです！。社長に話しなさい。社長なら朝鮮戦争で大儲けしてるから味は知ってますわ」

「これをアメリカへお売り遊ばせ。大量生産すれば何千億にもなりますわ。アメリカの国防総省にはDARPA という組織があつて、そこでは各種兵器の開発と調査や研究をしています。そこが喜んで買いますから。」(ホホホ、これは言うなれば私たちの虎の子。専門的言えば2114ダイクロールフェノキン酢酸からつくった除草剤の一種……。名づけて**枯葉剤**。山野に撒くと一切の植物は枯れ死んで一面の荒野になり、すべての生きものが餓死します。そのうえ川へ流れ込めば二次的に毒物となって、さらに人間や生きものを全滅させます) 「意気地のないこと」(そういった良心はさっぱりお捨て遊ばせ。ホ…ホ…) [123頁2コマ〜125頁6コマ]

メビウスの輪

「貴方が一ノ関教授かどちらかが明日この世から消えねばなりません。いいですか……貴方と一ノ関教授は同一人物なんです。貴方には心当たりがあるでしょうか？。貴方は、過去のことは全く記憶がないはず。何故ならかつては一ノ関教授だったのですから。貴方は一ノ関教授だった時、二十歳の青春時代に若返って人生をもう一度やり直したいと行って私と契約したんです。その時の契約の印が先生の手首あるはず。これです。血のインキを出した傷の跡ですわ。このままで行けば、一ノ関教授は限りなく坂根第一になり、坂根は教授に無限に会い続けることになります。ねえ、この袋小路から脱け出す方法は一つしかありません。それはヒラの身のあたしには権限はないんです。あたしのボスのルシファーが明日、選択して決めるでしょう。先生……こんな羽目になったのを許して下さいね。」〔362頁〜364頁〕

ことばの知識

四字熟語

きおくそうしつ【記憶喪失】「ね、社長さん。この人あの**記憶喪失**とかいう病気じゃない。新聞にあったでしょ。沖縄で何にも覚えていない男の人が……」（雪代の女主人）〔87頁4コマ〕

こうしこんどう【公私混同】「わかってるよ！**公私混同**はしないつもりよ」〔79頁5コマ〕

しょうしんしょうめい【真正銘】「使えるかって？こりや**真正銘**のクレジットカード……」〔67頁2コマ〕

せいてんへきれき【青天霹靂】「さてと、これから展開する**青天へきれき**の大喜劇、義父さんあのも世からゆつくり見物してくれよ」〔255頁9コマ〕

らっかるうぜき【落花狼藉】その翌日……NG大学のキャンパスは**落花狼藉**の有様で、学生の姿はほとんど消えていたそう。〔41頁1コマ〕

ことわざ慣用句

絵に描いている餅：「おんしのプランは**絵に描いとオモチ**よ。金が足りんわ。金が!!。」

弘法にも筆の誤り：「ええ、いまいい!!。**弘法にも筆のあやまり**ってことわざがあるけど、悪魔にも計算ちがいつてことがあるもんだわ！」〔166頁7コマ〕

ミイラ取りがミイラになる：「何おっしゃってるのですか。**ミイラ取りがミイラになつちや**仕方がないですわな。お嬢様ともあろう人が……」（ホルモン焼きの店の女主人）〔79頁4コマ〕。

悪魔を呼び出す呪文

①カタカナ表記

：「アタル・バテル・ノーテ・イホラム・アセイ・クレイウンギト・ガベリン……」〔49頁3コマ〕「パラス・アロオツイノマスバスケ・バノツダン・ドナスゲヘアメル……」
 「ペル・セデム・バルダシ・エト・ペトグラティアム……」〔50頁1・2コマ〕

「パラス・アロオツイノマスバスケ・バノツダン・ドナスゲヘアメル……」
 「ペル・セデム・バルダシ・エト・ペトグラティアム……」〔36頁1・2コマ〕

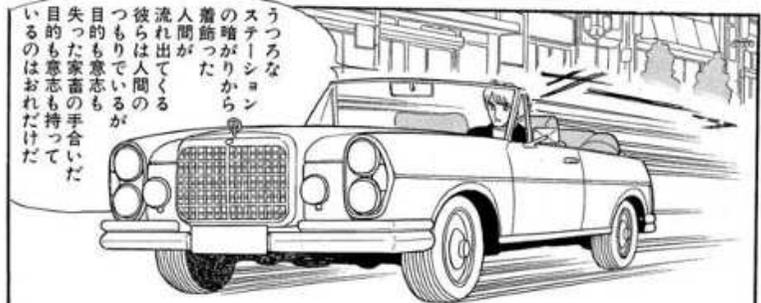
②和漢混淆文表記

：「あらゆる叛逆と精霊の主ルシファアよ。汝の大いなる大臣シシフェージュ・ロフォカルを呼び寄せ契約を結ばんと欲す。いずこにあらうとそのすみかより出で姿を現しわれに語りかけよ。偉大なる「ソロモンの鍵」の強き言葉にかけて命ずるものなり」〔50頁7・8・9コマ〕〔368頁7・8・9コマ〕

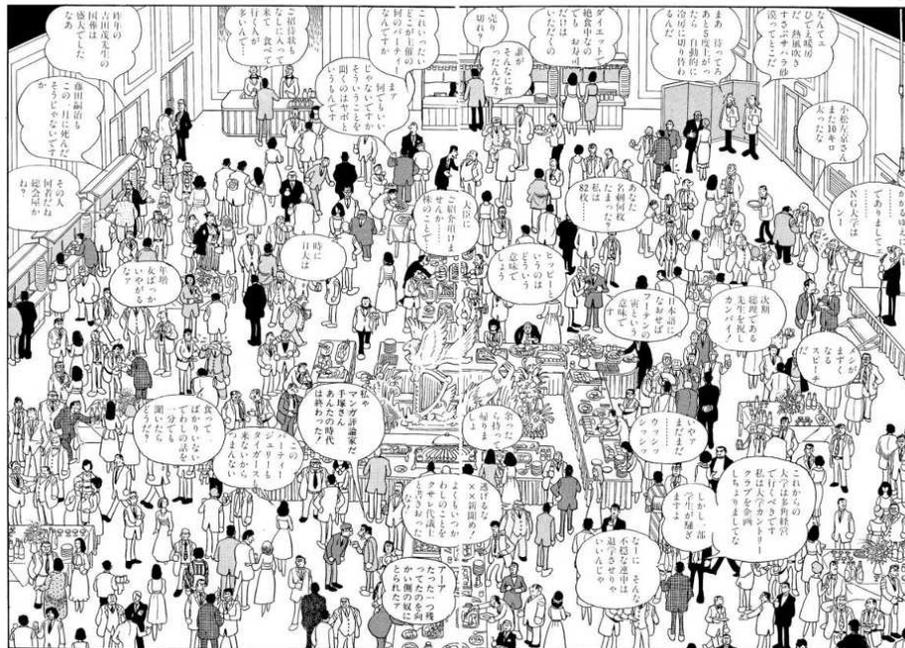
NG 大全共闘の石巻がまり子に語ることば

「白土三平が書いている。「われら遠くより来たり遠くへ去る」僕らはね。勝利を勝ち取るためにはこれから自己を否定して一個人として身を捧げるんだ。そのためには、僕はもつとラジカルに闘いを進める。決め給え。僕について来るか坂根という男に寄り添うのか。聞かせてくれ。まり子」〔283頁〕※石巻が手にしている雑誌本は「ガロ」と明示されている。

パノラマ風に描く世相風刺の漫画



1966年（昭和四十一年）〔150頁〕



ホテル・ワルプルギスでの超一流パーティー会場〔252頁〜253頁〕

新聞記事の貼りだし

妻見蔵相（妻見偶依大蔵大臣）が3億円収賄〔272頁1コマ〕
 3億円リベート暴露〔272頁2コマ〕
 NG大学理事長がわいろ工作〔272頁3コマ〕
 NG大学理事長国会に喚問か〔272頁4コマ〕

ここでは、第二部を第一部のように扱いきれませんでした。この先の展開が私にはまるで見えていないからです。じっくり、作者手塚治虫の先行き造りを見通せる目を養わねばなりません。